

区分・種別	国宝(工芸品)		
名称	きんじゅうぶどうきょう 禽獣葡萄鏡 1面		
所在地	今治市大三島町宮浦		
所有者	大山祇神社	管理者団体	
指定年月日	明治34年3月27日 国 昭和28年3月31日 国宝		
解説	<p>面径26.8cm、縁厚1.7cm、重量3,646gの大形の白銅鑄円鏡である。</p> <p>鏡背は鈕を中心に同心の圈条で内外2区に大別される。中央鈕は、たてがみを渦巻かせた<sup>さんげい</sup>狻猊が獲物をくわえてうづくまり、力強く四脚をふまえた怪獣を大きく高肉で表している。その周りを、内区には周縁添いに<sup>ぶどう</sup>葡萄唐草文を巡らし、それぞれ1対ずつの孔雀、鳳凰、狻猊を対照的に配し、その間に小禽小獣の喜遊する様を表し、余地は葡萄の実で埋めている。内区の外側の部分には雲渦文を連ねている。外区は縁に添って<sup>にんどうからくさ</sup>忍冬唐草文を巡らした圈をつくり、その内側に内区と同様葡萄唐草文を巡らし連ね、これに<sup>おながとり</sup>狻猊と<sup>えんおう</sup>鳳凰、孔雀、尾長鳥、鴛鴦その他の飛鳥の種々の姿を表している。</p> <p>鏡体は厚薄の変化、圈帯の比例など極めて斉整明快である。鑄技は極めて精巧で鑄上がりも美しく、端麗な装飾味あふれた鏡である。唐時代に盛行したいわゆる<sup>かいじゅう</sup>海獣葡萄鏡の典型である。</p>		

